

“韓国の学校”

のPR作戦の特色

それにしてもコンピュータが苦手な教師もいるはずだと思っていれば、実は林校長がその一人。だがICTを積極的に活用しなければ職責を果たせない」と決意し、進んで研修に参加された。管理職に重要なものは、自分の能力や好みで舵取りを過たないこと、というのは、

付けられた。その結果、パソコン操作の授業を担当でき、どの学校にもソフト・ハード双方を高度に操作できる教師がいるようになった。

学校の外的変化がこれらを支えた（要求した）。駅や郵便局などの身近な公共施設にインターネット端末機が設置され、一時間千ウオン（約百円）以下でインターネットできるコンピュータが数十台並んだPCバン（インターネットカフェ）が、街のいたるところで営業される。家庭へのブロードバンド普及率は九割以上（新月初等学校の親の九五%が日常的にインターネットを使用）。これらの条件の相乗効果により、ホームページを通じた情報公開や新たな交流と学習が可能になったわけである。

教師の側も積極的に活用し、優れた実践をデータベースに提供する。また、教室での個別化学習や家庭での自己主導的学習のための資料として改良し、クラスのサイトにストックする。それを子どもが自由に利用できることは先に紹介した。ICT活動の拡大が新たな実践方法を生み出したわけである。

ちなみに新月初等学校の経営書（教育計画）のICT教育の欄には、①情報の理解と倫理、②コンピュータの基礎、

もう一つICT活動拡大の基盤がある。教材開発とそのデータベース化である。KRIBET（韓国教育芸術情報院）はICT教材の開発に取り組み、その成果をグラフィックや学習モジュールの形式でビデオやCDに収める一方で、WEB上に公開した。教員養成系大学や研究機関あるいは広域市・道の教育庁や地域教育庁（市、郡、区）でも開発を進め、全国の教師が利用できるようデータベース化された。

日本はどうか。学校のみ別世界にないか。リスク故に決断できない方は想像してほしい。子どもたちが将来どこで誰と競わなければならないかを。そして問い直してほしい。学校が誰のためにあるかを。

③ソフトウェアの活用、④コンピュータ通信、⑤総合活動という五種の領域において、教育内容と実践方法が学年と教科の単位で列記されている。特に①を重視し、ネチケット教育を月一回全学年に、インターネット通信中毒検査及び予防指導を四年以上に二回実施する。リスクを承知で先に進もうとする意思が読み取れる。

インターネットで結ばれたサイトはバーチャルな空間の開放に止まらず、学校と子どもや親のリアルな関係の変化を生む。PRの意図がなくとも、結果として学校はまる裸にされるからである。そしてこの変化が〇二年ワールドカップの熱狂や大統領選挙の予想外の結果の源。今中国を含む東アジア全体に広がる。

海外の学校 のPR作戦

静岡大学教授

馬居政幸



一 全てはホームページから

「今なお儒教の伝統故に教師の権威が高い韓国の学校でPRという発想があるだろうか。」

これが本誌の依頼で最初に浮かんだことである。

だがそれが偏見であることを、昨年末に訪問した韓国の古都、公州市の新月（シンウォル）初等学校の林完熙校長の次の言葉から知らされた。

「年に二回、最優秀のホームページをつくったクラスとホームページを積極的に活用した子どもを表彰します。」

最初は何のことか分からなかったが、林校長自ら操作し、説明するコンテンツを見て納得した。トップページは真ん中に学校の掲示板、上部に父母の広場、クラスの広場、子どもの広場、教師の広場が並び、クリックするだけで、誰もが互いにコミュニケーションできる。

掲示板には、学校運営委員会の開催日が参加の勤めとともに記載されていた。各クラスのサイトに入ると、担任が書いた授業概要が現れ、親はいつでも

確認できる。授業の準備物やクラスの連絡も全てこのサイトで行う。よい指導案や研修内容は教師の広場に公開され、全国の教師が活用できる。親も自分が感動した本や歌の感想を父母の広場に書き込み、それらが国語や道徳の教材に使われる。進度や理解度に応じて準備した多様な教材を担当がサイトにストックし、それを子どもが自宅のパソコンから取り出し、学習の遅れを補うためやより高度な学習を行うために使用する（自己主導的学習）。もちろん、学校や教師への意見も書き込まれる。学校のホームページは、多様なヒト、モノ、コトが出会い、新たな学びと教えが生まれる広場である。

日本では未だに作るかどうか思案中の学校もあると聞くが、韓国ではホームページを活用した学習が、どの学校も教育計画の重要テーマ。全国各地のモデル校で、様々な研究が進められている。その必然として、学校がどのような教育を行い、子どもがどのように育つかを、誰もが知ることができる最高のPRの広場に、ホームページが

なっている。

なぜこのようなことが生じたか。国家戦略として構築したIT（情報技術）化とその教育版のICT（情報コミュニケーション技術）活動の成果である。

二 危機は転換の好機

韓国は九七から九八年にかけ国家経済が破綻する危機に陥った。その克服をIT化に託すことを政府は決断した。それも産業振興のためのインフラ整備だけではない。人のあり方すなわち教育改革とセットであった。教育部は〇一年度までにICT活用を全授業の三割に広げることが目標に、初等学校、中学校、高等学校の全教員にノートパソコンを配布し、ICT活用に関する教員研修（最低六〇時間）を義務付けた。おまけに、その結果を評価（数値化）し、昇進システムにリンクさせた。

私の調査では一二〇時間以上研修を受け、自費で資格を獲得する教師も多い（これも評価の対象。反面、適応できず（特に高齢者）退職した者もいた。管理職も例外でない。別枠で研修を義務

新年度一学校イメージUP の情報戦略40

学校運営研究

2004年4月号 Vol. 43, NO. 560

「学校経営における情報戦略」という発想の是非

葉養 正明・佐竹 勝利・島崎 英夫

7

やがて日本もこうなる?! 海外の学校のPR作戦

イギリスの学校のPR作戦の特色

アメリカの学校のPR作戦の特色

韓国の学校のPR作戦の特色

田中 博之 8

小野由美子 10

馬居 政幸 12

04年度：学校のアピール重点と情報戦略の立て方

特別支援教育への理解を高めるアピールとは

経営目標の数値化への理解を高めるアピールとは

二期制への理解を高めるアピールとは

習熟度別少人数指導への理解を高めるアピールとは

総合の全体計画への理解を高めるアピールとは

小学校英語への理解を高めるアピールとは

絶対評価の通知表への理解を高めるアピールとは

危機管理への理解を高めるアピールとは

矢口 英明 14

石黒 雅明 16

相沢 陽一 18

浦野 卓三 20

五島由美子 22

安住 順一 24

陣川 桂三 26

宇佐美博子 28

わが校でするアピール作戦と情報戦略のポイント

入学式でする学校イメージUPの戦略

保護者会でする学校イメージUPの戦略

公開日でする学校イメージUPの戦略

HPでする学校イメージUPの戦略

櫻村 憲一 30

安富 篤 32

廣川 実 34

岩月 照久 36

表紙2・グラビア1

教育環境の工夫で学校の元気をつくる1 北海道札幌市立有明小学校長 田山修三

グラビア2・扉

わが校のHP自慢1

千葉県木更津市立太田中学校 市原 浩

(表紙イラスト) 日本画家：山内一牛

学校要覧でする学校イメージUPの戦略
職員会議でする学校イメージUPの戦略
私が見た！教育関係の情報アピール性の採点とうまい例紹介

大森はな子 38

佐藤 紀之 40

わが校の特色を等身大で説明することこそがアピール

「イメージ戦略」とは？成功例はほとんどなし

アピールできない文部科学省

浅野 良一 42

岡本 薫 44

山上浩二郎 46

あの時どうアピールして「学校世論の流れ」を変えたか

男女混合名簿・さん付け 廃止

地域連携から産学融合へ

人間力を育む学校からの発信

長谷川清長 48

江幡 淳 50

貝ノ瀬 滋 52

教職員がする「私の学級のイメージUP作戦

「指導と評価の一体化」の取り組みで学力定着をアピール

学級通信で教師の意気込み・必達目標をさらけ出し、自分をかけつちに追いこむ

学級での取り組みを保護者に積極的に伝えて信頼を得る

島原 洋 54

根本 直樹 56

蜂須賀 涉 58

学校マニフェストをどう構想するか

特別支援教育の実践指針

2学期制のメリットと導入のノウハウ

小松 郁夫 60

松村 勘由 64

大風 秀康 66

ADHDの子の親として医療と教育を考える

小学校英語導入のウォーミングアップ

教育情報の読み方・活かし方

文教ニュース

色4

親の目・教師の目・記者の目—教育界の問題点に迫る1

表紙3・4

学校でする動物との触れ合い—獣医師の提言1

山上浩二郎

中川美穂子

(研究会案内)